

PRESS RELEASE

2018 / 11 / 21

インポッシブル・アーキテクチャー

— もうひとつの建築史 —

Impossible Architecture

2019年2月2日（土）—3月24日（日）

埼玉県立近代美術館

建築の歴史を振り返ると、完成に至らなかった素晴らしい構想や、あえて提案に留めた刺激的なアイデアが数多く存在しています。未来に向けて夢想した建築、技術的には可能であったにもかかわらず社会的な条件や制度によって実施できなかった建築、実現よりも既存の制度に対して批評精神を打ち出す点に主眼を置いた提案など、いわゆるアンビルト/未完の建築には、作者の夢や思考がより直接的に表現されているはずです。

この展覧会は、20世紀以降の国外、国内のアンビルトの建築に焦点をあて、それらを仮に「インポッシブル・アーキテクチャー」と称しています。ここでの「インポッシブル」という言葉は、単に建築構想がラディカルで無理難題であるがゆえの「不可能」を意味しません。言うまでもなく、不可能に眼を向ければ、同時に可能性の境界を問うことにも繋がります。建築の不可能性に焦点をあてることによって、逆説的にも建築における極限の可能性や豊穡な潜在力が浮かび上がってくる—それこそが、この展覧会のねらいです。

約40人の建築家・美術家による「インポッシブル・アーキテクチャー」を、図面、模型、関連資料などを通して読み解きながら、未だ見ぬ新たな建築の姿を展望します。

展覧会構成

*主な出品予定作家 (アルファベット順)

会田誠、安藤忠雄、アーキグラム、荒川修作+マドリン・ギンズ、ヤーコフ・チェルニホフ、ヨナ・フリードマン、藤本壮介、マーク・フォスター・ゲージ、ピエール・ジャン・ジルー、ザハ・ハディド・アーキテクツ+設計 JV (日建設計、梓設計、日本設計、オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン設計共同体)、ジョン・ヘイダック、ハンス・ホライン、石上純也、磯崎新、川喜田煉七郎、菊竹清訓、レム・コールハース、黒川紀章、ダニエル・リベスキンド、前川國男、カジミール・マレーヴィチ、ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ、長倉威彦、コンスタン・ニーヴェンホイス、山口文象 (岡村蚊象)、岡本太郎、セドリック・プライス、エットレ・ソットサス、スーパースタジオ、瀧澤眞弓、ウラジーミル・タトリン、ブルーノ・タウト、ジュゼッペ・テラーニ、山口晃、村田豊

*出品点数：約 190 点 (予定)

関連イベント

■クロストーク

出演：五十嵐太郎 (本展監修者・東北大学教授) × 建畠哲 (当館館長) / 日時：2月11日 (月・祝) 14:30~16:30 (開場は 30 分前) / 会場：2 階講堂 / 定員：100 名 (当日先着順) / 料金：無料 / 内容：本展の企画に携わった 2 人が、出品作品をもとに建築の可能性について対談します。

■レクチャー「インポッシブル・アーキテクチャーの起源と未来」

講師：今村創平 (千葉工業大学教授) / 日時：2月23日 (土) 14:30~16:00 (開場は 30 分前) / 会場：2 階講堂 / 定員：100 名 (当日先着順) / 料金：無料 / 内容：インポッシブル・アーキテクチャーはなぜ生まれ、今後どのような展開を見せるのかについて、お話しいただきます。

■ミュージアム・コンサート

①2月24日 (日) 14:30~ (開場は 30 分前、演奏時間は約 60 分) / 地階センタホール / 定員：60 席 (当日先着順) / 料金：無料 / 出演者：佐藤通弘 (津軽三味線)、吉見征樹 (タブラ) / 内容：クロスカルチャーな活動で異彩を放つお二人が、様々な国の音楽にインスパイアされたナンバーをお届けいたします。

②3月3日 (日) 時間未定 / 館内各所 / 料金：無料 / 出演者：jaywalker(Zoo-Zoo、RiE-men) / 内容：日常に潜むバイアスを 1 日の時間軸で表現するダンスパフォーマンス。当館所蔵の名作椅子も活用します。開催時間等詳細は、後日、当館ホームページでお知らせします。

■担当学芸員によるギャラリートーク

日時：2月16日 (土)、3月9日 (土) 各日とも 15:00 から 30 分程度 / 会場：2 階展示室

／料金：企画展観覧料が必要です。

開催概要

1. 会期 2019年2月2日（土）～3月24日（日）
休館日：月曜日（2月11日は開館）
2. 開館時間 10時～17時30分（展示室への入場は17時まで）
3. 観覧料 一般1200円（960円）、大高生960円（770円）
（ ）内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳をご提示の方（付き添い1名を含む）は無料です。
※併せてMOMASコレクション（1F展示室）もご覧いただけます。
4. 主催 埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
5. 監修 五十嵐太郎
6. 協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
7. 協力 Estate of Madeline Gins / Reversible Destiny Foundation、JR東日本大宮支社、FM NACK5
8. 会場案内／アクセス

埼玉県立近代美術館 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1

電話 048-824-0111 FAX 048-824-0118

<http://www.pref.spec.ed.jp/momas/>

JR京浜東北線北浦和駅西口から徒歩3分（北浦和公園内）。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約35分です。当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き）。団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので予めご了承ください。

お問い合わせ

展覧会担当：平野・五味・富安 ／ 広報・画像に関してのお問い合わせ：谷田

電話 048-824-0111（代表）／ 048-824-0110（学芸部） Fax 048-824-0118

広報用画像



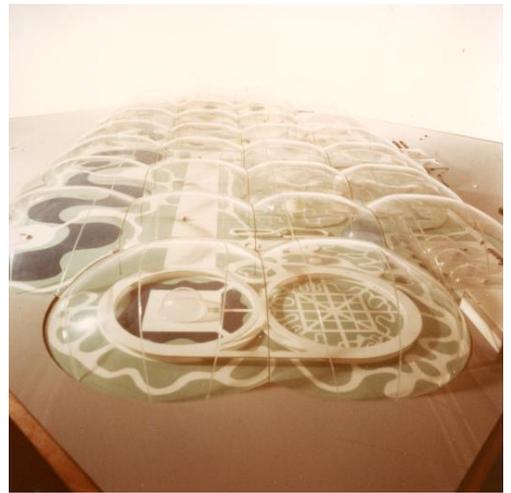
①



②



③



④



⑤



⑥

- ・ 画像のご提供については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。ご請求はメールで、kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当・谷田）までお願いします。
- ・ 画像を掲載する場合、下記キャプションを記載してください。また作品部分のトリミング、文字載せなどはしないようにお願いします。
- ・ 貴社媒体にて本展をご紹介いただける場合、ご希望により読者プレゼント用招待券をご提供します。枚数の限りがありますので、詳細はお問い合わせください。

■キャプション

- ① 映像制作・監督：長倉威彦、コンピューター・グラフィックス：アンドレ・ザルジッキ／長倉威彦／ダン・ブリック／マーク・シッチ、《ウラジーミル・タトリン「第三インターナショナル記念塔」(1919-20年)》、コンピューター・グラフィックス、1998年
- ② ヤーコフ・チェルニホフ、『建築ファンタジー 101のカラー・コンポジション、101の建築小図』より、書籍、1933年、個人蔵
- ③ 荒川修作＋マドリン・ギンズ | 《問われているプロセス／反転できる宿命の橋》 | 模型 | 1973-89年 | © 2019 Estate of Madeline Gins. Reproduced with permission of the Estate of Madeline Gins.
- ④ 村田豊《ソビエト青少年スポーツ施設》模型写真、1972年、個人蔵
- ⑤ 藤本壮介《ベトンハラ・ウォーターフロント・センター》、コンピューター・グラフィックス、2012年
- ⑥ マーク・フォスター・ゲージ《グッゲンハイム・ヘルシンキ美術館》コンピューター・グラフィックス、2014年、Image courtesy of Mark Foster Gage Architects